

#1 キリストを経験することの内在的な意義

(メモリアルデー特別集会) 2019/7/1-7

I. キリストに対する経験は奥義です:

A. 神は奥義であり、キリストは神の奥義であり、召会はキリストの奥義です。ですから、召会は、実は奥義の中の奥義です。

B. 私たちのクリスチャン生活は奥義です。例えば、人の愛は有限ですが、クリスチャンが生かし出す正常な愛は無限です。ですから、クリスチャンの愛は奥義です。

C. キリストを大きく表現することは、限りなくキリストを表現することです。それは全宇宙に、私たちが生きるキリストが無限であることを表明することです。ピリピ1:20 そこで、私の切なる期待と希望は、私がどんな事にも恥じることなく、かえっていつものように、あらゆる事で大胆になって、生きるにも死ぬにも、今なおキリストが、私の体において大きく表現されることです。

D. パウロがキリストを無限の忍耐として経験することは、無限のキリストを大きく表現することでした。私たちがイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によってキリストを生きることを通して持つ属性はどれも無限であり、それゆえに奥義的です。ピリピ1:21 なぜなら、私にとって生きることはキリストであり、死ぬことは益であるからです。

E. 私たちが人を赦すことでさえ、キリストを大きく表現することである必要があります。私たちが赦すことは、無尽蔵のキリストご自身が私たちの中で大きく表現されることです。

F. 苦難のただ中で、私たちは単純に主を愛し、彼を経験すべきです。そのとき私たちはキリストを大きく表現し、彼を無限の方として表現します。苦難を通してキリストを大きく表現することは喜びです。II コリント12:9 すると彼は私に言われました、「私の恵みは、あなたに対して十分である。私の力は、弱さにおいて完全に現れる」。ですから、私はむしろ自分の弱さを、大いに喜んで誇りましょう。それはキリストの力が、私の上に幕屋を張るためです。

G. キリストを経験することは奥義であり、私たちがキリストを経験することは何であれ無限です。私たちがこのビジョンを見るなら、それは私たちの生活を制御するだけでなく、また私たちのクリスチャンの歩みを強めます。神の意図は、私たちを通してキリストを大きく表現することです。

H. 召会生活は私たちのクリスチャン生活の総合計です。私たちはみなキリストを生き、私たちのクリスチャン生活が共に加えられて、召会生活となります。私たちが召会として共に集まって来るとき、私たちは完全な奥義です。

I テモテ3:15 それは、もし私が遅れた場合、神の家の中でどのように振る舞うべきかを、あなたに知ってもらうためです。神の家とは生ける神の召会であって、真理の柱また基礎です。16 そして確かに、偉大なのは敬虔の奥義です。この方は肉体において現され、霊において義とされ、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世の人の中で信じられ、栄光のうちに上げられた。

J. パウロは、「私にとって生きることはキリストであり」と言います。これが意味するのは、私たちが生きることはキリストであることができるということです。私たちが経験し生きるキリストは奥義です。私たちは、自分の経験に対していかなる確信も持つべきではありません。なぜなら、キリストに対するすべての経験は奥義的であるからです。

II. ピリピ人への手紙が明らかにしているのは、キリストを経験することが、私たちが福音を前進させる交わりを持つことであり、主イエスが再臨するまで続くということです:

ピリピ1:3 私は、あなたがたのことを思うたびに、私の神に感謝し、4 あなたがたすべてのために祈り求めるたびに、

いつも喜びをもって祈り求めています。5 それは、最初の日から今日まで、あなたがたが福音を前進させる交わりにあるからです。6 私は、あなたがたの中で良いわざを始められた方が、それを完成してくださり、キリスト・イエスの日に至ることを確信しています。

A. 私たちが救われた時から、主イエスが再臨する時まで、私たちのクリスチャン生活は福音を宣べ伝える生活であるべきです:

1. キリストを経験し享受する生活は、福音を前進させる生活、福音を宣べ伝える生活であり、個人的ではなく団体的です。私たちは福音を前進させる交わりを持てば持つほど、ますますキリストを経験し享受します。これは私たちの自己、野心、好み、選択を殺します。2. 私たちが語っても静かにしていても、私たちの命、生活、存在、パースン全体は、キリストを宣べ伝えることでなければなりません。

B. パウロは私たちに、「キリストの福音にふさわしく」振る舞うように、すなわち、「一つ霊の中でしっかりと立ち、一つ魂をもって、福音の信仰と共に奮闘して」いるようにと命じています:ピリピ1:27 ただ、キリストの福音にふさわしく振る舞いなさい。それは、私が行ってあなたがたを見るにしても、離れているにしても、あなたがたの様子を聞くことができるためです。すなわち、あなたがたが一つ霊の中でしっかりと立ち、一つ魂をもって、福音の信仰と共に奮闘しており、

1. 福音の働きのために一つ魂であり、同じ魂であることは、一つ霊の中でキリストを経験することよりも難しいのです。ピリピ2:20-21 それは、あなたがたのことを本気で心配している私と同じ魂の人を、私は一人も持たないからです。…人はみな自分自身のことを求めて、キリスト・イエスのことを求めないのです。2. 一つ魂であることは、私たちが霊の中で再生された後、前進して私たちの魂の中で造り変えられることを必要とします。3. もし私たちが情感、思想、決定において一でないなら、一つ魂ではありません。私たちは魂において一でない限り、福音を前進させる交わりの中におらず、私たちの振る舞いは福音にふさわしくありません。

4. 召会のすべての肢体が一つ霊の中にいて一つ魂であるなら、この一は人を納得させ、従わせ、引き寄せ、そして私たちはキリストを経験し、彼を享受します。

III. 厳密に言って、ピリピ人への手紙はキリストを経験することについての書であるだけでなく、キリストを享受することについての書でもあります:

A. ピリピ人への手紙はキリストに対する経験と享受についてであり、その結果は喜びであるので、それは喜びと歓喜に満ちた書です。ピリピ2:2 どうかあなたがたは同じ事を思い、同じ愛を持ち、魂において結合され、一つの事を思って、私の喜びが満ちるようにしてください。4:4 主の中でいつも喜びなさい。私は繰り返して言います。喜びなさい。

B. キリストを経験することはおもに私たちの霊の中でのことですが、キリストを享受することは私たちの魂の中でのことです。食物を食べさせられても享受していない子供のように、多くの時私たちはキリストを経験しても彼を享受していません。

C. ですから、私たちはキリストを経験しても、キリストを享受していない可能性があります。この問題は、私たちの魂(私たちの思い、感情、意志)にあります。

D. 私は、あなたがたがあまりキリストを享受していないかもしれぬことを、いくらか心配しています」。多くの人がキリストに対する享受を失っているのは、彼らが魂に問題を持っているからです。もしあなたがたがあまりキリストを享受していないなら、それはあなたがたが魂において一でなく、魂において結合されていないことを示します。

E. ピリピ人の間に、思うことで不和があり、それが使徒を悩ませました。ですから、彼は彼らに同じ事を、一つの事をさえ思って、彼の喜びが満ちるようにすることを求めました：

1. この書の文脈によれば、「一つの事」は、キリストに対する主観的な認識と経験を指しているに違いありません。キリスト、キリストだけが、私たちの全存在の中心性と普遍性であるべきです。**ピリピ3:8** しかしさらに、私はまた、私の主キリストイエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、私はすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくと勘定します。それは、私がキリストを獲得するためであり、

2. 一つの事は、召会生活、からだの生活のために、キリストを私たちの享受として主観的に経験することです。この一つの事は、絶えず私たちの思いを占有しているべきです。私たちが一つの事を思うなら、キリストに対する享受は直ちに私たちの分け前となります。**3.** 私たちの思うことは、キリストに対する知識と経験の卓越性に集中しているべきです。他の何かに集中することは、私たちに異なることを思わせ、こうして私たちの間に不和を作ります。**ピリピ3:10** キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりを知り、彼の死に同形化されて、**4.** 一つの事以外の何かを思うことは、神のエコノミーに反逆することです。神のエコノミーは、私たちが一つの事を思うことです。

5. ピリピ人の信者たちは、彼らの思うことでの不和のゆえに、異なる程度の愛を持っていました。彼らはすべての聖徒に対して同じ愛を持って一を守ることをしませんでした。聖徒たちに対する私たちの愛が調整され対処されているなら、私たちは聖徒たちを愛するとき、キリストを享受します。

6. 魂において一であり、魂において結合されることは、キリストを経験するためだけでなく、それにもましてキリストを享受するためです。私たちのキリストに対する経験は、キリストに対する享受でもあるべきです。**7.** キリストを経験して享受があるために、私たちは一つ霊の中において、一つ魂を持つ必要があります。キリストを享受するために、私たちは正しい魂、すなわち、他の聖徒たちの魂と一である「共同の魂」を持つ必要があります。**8.** 私たちが行なうべき最も重要な事は、今日キリストを私たちの享受として経験し、召会が建造されて彼の栄光となることです。これは、私たちが主の回復の中で守られて、主が再臨するに至る道です。 **✠**

Crucial Point①:キリストに対する経験は奥義である

OL1: 神は奥義であり、キリストは神の奥義であり、召会はキリストの奥義です。ですから、召会は、実は奥義の中の奥義です。**コロサイ 2:2** それは、彼らの心が慰められ、彼らが愛の中で結び合わされ、理解力から来る全き確信のあらゆる豊富へと至るため、すなわち、神の奥義なるキリストを知る全き知識へと至るためです。

OL2: 私たちのクリスチャン生活は奥義です。例えば、人の愛は有限ですが、クリスチャンが生かし出す正常な愛は無限です。ですから、クリスチャンの愛は奥義です。**OL3:** キリストを大きく表現することは、限りなくキリストを表現することです。それは全宇宙に、私たちが生きるキリストが無限であることを表明することです。**ピリピ 1:20** そこで、私の切なる期待と希望は、私がどんな事にも恥じることなく、かえっていつものように、あらゆる事で大胆になって、生きるにも死ぬにも、今なおキリストが、私の体において大きく表現されることです。

OL4: 召会生活は私たちのクリスチャン生活の総合計です。私たちはみなキリストを生き、私たちのクリスチャン生活が共に加えられて、召会生活となります。私たちが召会として共に集まって来るとき、私たちは完全な奥義です。

キリストに対する経験は奥義であり、私たちがキリストを

経験することは何であれ無限です。私たちがこのビジョンを見るなら、それは私たちの生活を制御するだけでなく、また私たちのクリスチャンの歩みを強めます。…召会生活は私たちのクリスチャン生活の総合計です。私たちはみなキリストによって生き、私たちのクリスチャン生活が共に加えられて、召会生活となります。

人のすべての美德は制限されています。例えば、人の我慢は最終的に、使い尽くされてしまいます。しかし、私たちから生かし出され、大きく表現されたキリストは、使い尽くされることはありません。この奥義は、悪魔、悪鬼、すべての邪悪な天使たちを服従させます。それはまたあらゆる人を納得させます。どのような正常な人も、キリストが大きく表現されることを見ることによって納得させられます。私たちクリスチャンの辛抱強さは奥義です。なぜなら、それはキリストが大きく表現されることであるからです。このことは単に大きく表現されたキリストであるだけではありません。それは無制限の方として大きく表現されたキリストです。

私たちが他の人を赦すことでさえ、キリストが大きく表現されることである必要があります。マタイ 18 章において、ペテロは自分の兄弟を何回赦すべきかを主に尋ねました。ペテロは兄弟を七回まで赦すべきであるかと尋ねました。しかし、主は七回を七十倍まで赦さなければならないと彼に告げました。このことは尽きることのない赦しです。

キリストを大きく表現することは、キリストを無限である方として表現することを意味します。キリストは私たちの苦難の増加を通して大きく表現されます。苦難を恐れてはなりません。なぜなら、苦難を通してキリストを大きく表現することは喜びであるからです。…パウロは何度も何度も、この書において、主の中で喜ぶようにと私たちに告げています。私たちが喜ばしい環境の中にいるとき、喜びで満ちていることはそれほど意味がないかもしれません。しかし、私たちが獄の中にいるときに喜ぶことは、大きな意味があります。

適用:青少年・大学生編

あなたのキリスト経験は奥義的であるので、無限のキリストを大きく表現すべきです。例えば、あなたがある人間関係でキリストを愛として経験し、人を愛することができました。その経験は素晴らしいのですが、どうか覚えてください、キリストの愛は無限です。また、あなたは受験、定期テスト、英検あるいは TOEIC、日本語検定などで、キリストを知恵、理解力、忍耐力として経験しました。しかし、キリストの知恵、理解力、忍耐力は無限です。あなたは過去のキリスト経験にとどまってははいけません。今日、兄弟姉妹と共に、新たに主に開き、新鮮に、さらに広く、長く、高く、深いキリストを経験する必要があります。キリストのあらゆる面は無限です。少しの経験で、キリストをもう経験し尽くしたと考えるはいけません。**エペソ 3:8** すべての聖徒のうちで最も小さい者よりも小さい私に、この恵みが与えられたのは、キリストの計り知れない豊富(Unsearchable riches of Christ)を、異邦人に福音として宣べ伝えるためであり、

18 力に満たされて、すべての聖徒たちと共に、その広さ、長さ、高さ、深さが何であるかを会得し、**19** そして、知識を超越したキリストの愛を知ることができるように。また、あなたがたが満たされて、神の全豊満へと至るように。

祈り:「おお主イエスよ、私の主の豊富は無限です。私の目を開き、無限に拡張するキリストを経験し、キリストを大きく表現できますように。キリストの経験は奥義的です。兄弟姉妹と共に、無限のキリストを日ごとに経験し、享受させてください。そして私たちが神の全豊満で満たされますように。召会生活の中で、いつも主に完全に開き、無限のキリストに対する食欲を持つ続けることができますように」。

Crucial Point②:キリストを経験することは、福音を前進させる 交わりを持つことであり、主イエスの再臨まで続く

OL1:キリストを経験し享受する生活は、福音を前進させる生活、福音を宣べ伝える生活であり、個人的ではなく団体的です。私たちは福音を前進させる交わりを持つほど、ますますキリストを経験し享受します。これは私たちの自己、野心、好み、選択を殺します。**OL2:**一つ魂であることは、私たちが霊の中で再生された後、前進して私たちの魂の中で造り変えられることを必要とします。

OL3:もし私たちが情感、思想、決定において一でないなら、一つ魂ではありません。私たちは魂において一でない限り、福音を前進させる交わりの中におらず、私たちの振る舞いは福音にふさわしくありません。

OL4:召会のすべての肢体が一つ霊の中にいて一つ魂であるなら、この一は人を納得させ、従わせ、引き寄せ、そして私たちはキリストを経験し、彼を享受します。ピリピ1:3私は、あなたがたのことを思うたびに、私の神に感謝し、4あなたがたすべてのために祈り求めるたびに、いつも喜びをもって祈り求めています。5それは、最初の日から今日まで、あなたがたが福音を前進させる交わりにあるからです。6私は、あなたがたの中で良いわざを始められた方が、それを完成して下さり、キリストイエスの日に至ることを確信しています。

ピリピ1:27でパウロは言います、「ただ、キリストの福音にふさわしく振る舞いなさい」。私は何年も前にこの節を読んだ時、福音にふさわしく振る舞うこととは、私たちが福音を宣べ伝えている人たちの前での完全な振る舞いのことであると思っていました。しかし、このことはパウロがここで意味していることではありません。27節の残りの部分と言います、「それは、私が行ってあなたがたを見るにしても、離れているにしても、あなたがたの様子を聞くことができるためです。すなわち、あなたがたが一つ霊の中でしっかりと立ち、一つ魂をもって、福音の信仰と共に奮闘しており」。パウロはここで、自分の妻を愛すること、夫に従うこと、両親を敬うこと、親切で愛すべき方法で振る舞うことについて語っているわけではありません。そうではなく、彼は一つ霊の中でしっかりと立ち、一つ魂であるようにと私たちに告げています。もし私たちが一つ霊の中にいて一つ魂でなければ、私たちの振る舞いは福音にふさわしくありません。…私たちが一つ霊の中にいて一つ魂であることによって、キリストを享受します。福音を宣べ伝えることによって、私たちは霊の中で、また魂において私たちの一を表現します。…もし私たちが福音を宣べ伝えているとき、キリストを宴席としていないと感じないなら、何かの間違っています。…主要な事は、私たちが宣べ伝えている間に、キリストを宴席として、キリストを享受しているということです。

適用:新約の福音の祭司編

(すべての兄弟姉妹は新約の福音の祭司である)

新約の信者は皆、福音の祭司ですので、あなたは福音を伝える生活をする必要があります。パウロは福音を宣べ伝え、新人を牧養し、諸召会を建造しながら各地を旅行して回りました。その途中で、彼は新約の書簡を書きました。彼は福音を宣べ伝えながら、キリストを経験し、ビジョンを更新したのです。あなたは福音を前進させる交わりにあずからないなら、正常にキリストを経験し、享受することはできません。言い換えると、あなたは路上福音や親戚・友人・隣人への福音を実行しないなら、あなたのキリスト経験は貧しく、あなたのキリストと召会に関するビジョンは更新されません。「神はそのひとり子を賜ったほどに、世の人を愛された。それは、彼の中へと信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を持つためである(ヨハネ3:16)」。

人が火の池で永遠の滅びに至るかどうかは、人がキリストを信じるかどうかだけにかかっています。信じる人は永遠の命を得て、キリストのからだの肢体となります。あなたはあなたの親戚たちや友人たちが滅びることを願うでしょうか、それとも彼らがキリストのからだの肢体となり、団体的に神の栄光を表現することを願うでしょうか？

福音を前進させる交わりは、個人的な事柄ではなく団体的な事柄ですので、一つ霊であるだけでなく、一つ魂であることが要求されます。例えば、あなたがあまり福音の負担がなくても、召会の福音活動について批判するのはなく、一つ思いになって福音のために祈ってください。一つ魂の中で祈るとき、主から負担を受けたら、一時間でもいいので福音活動に参加してください。そうすれば、あなたは福音を前進させる交わりの中で、もっと豊かにキリストを経験し、享受することができます。ハレルヤ！

祈り:「おお主イエスよ、召会生活の中で福音を前進させる交わりにあずかります。私は福音の宣べ伝えにおいて、一つ霊と一つ魂を訓練します。主よ、あなたが私の霊から魂の思い、意志、感情に広がり、私の魂を造り変えてください。福音を前進させる交わりの中で、私はあなたを豊かに経験し、享受することができます。兄弟姉妹と共に福音友人のために祈り、彼らに福音を伝えます。私の周りの人々を救ってください。彼らが滅びから免れ、神を団体的に表現できますように。アーメン！」

Crucial Point③:正常な召会生活は、キリストを経験する だけでなく、キリストを享受する生活である

ピリピ2:2 どうかあなたがたは同じ事を思い、同じ愛を持ち、魂において結合され、一つの事を思って、私の喜びが満ちるようにしてください。4:4 主の中でいつも喜びなさい。私は繰り返して言います。喜びなさい。**OL1:**ピリピ人への手紙はキリストに対する経験と享受についてであり、その結果は喜びであるので、それは喜びと歓喜に満ちた書です。**OL2:**キリストを経験することはおもに私たちの霊の中でのことですが、キリストを享受することは私たちの魂の中でのことです。食物を食べさせられても享受していない子供のように、多くの時私たちはキリストを経験しても彼を享受していません。

OL3:「私は、あなたがたがあまりキリストを享受していないかもしれないことを、いくら心配しています」。多くの人がキリストに対する享受を失っているのは、彼らが魂に問題を持っているからです。もしあなたがたがあまりキリストを享受していないなら、それはあなたがたが魂において一でなく、魂において結合されていないことを示します。**OL4:**一つの事以外の何かを思うことは、神のエコノミーに反逆することです。神のエコノミーは、私たちが一つの事を思うことです。

召会生活は、私たちの思いから悪魔的な事を奪います。召会生活の中で、私たちは一つの事を、すなわち、召会生活のためにキリストを享受することを思うようにすべての聖徒たちを助けます。…私たちが他の事を思うときはいつでも、不従順であり反逆的です。一つの事以外の事を思うことは、神のエコノミーに敵対して反逆することです。神のエコノミーは、私たちが一つの事を思うことです。ある兄弟が、あなたを腹立たせたことがあるでしょうか？あなたはその腹立たせたことについて思うべきではありません。なぜなら、神のエコノミーは、あなたがそうするのを許さないからです。もしあなたがその腹立たせることについて思うなら、神に敵対して反逆しているのです。これは深刻な事柄です。つぶやきも反逆的です。神のエコノミーは、私たちがつぶやくことを許しません。そうすることは不従順

になることです。私たちはみな自分の個性を持っており、つぶやき、議論し、不平を言うことに慣れてしまっています。しかし、もし私たちが議論とつぶやきに関して照らされるなら、こう言うでしょう、「主よ、私の反逆を赦してください。…私は従順であって、あなたのエコノミーに従って、一つの事を思いたいのです。ある人たちは私を腹立たせましたが、その腹立たせたことについて思いたくありません。そうするのではなく、私はキリストを享受することと経験することだけを思いたいのです」。

適用: 在職青年・大学院生編

神のエコノミーはあなたがつぶやいて、反逆的になることを許しません。つぶやいたり、不平を言ったりすることは実は、あなたの魂の中の悪魔的な思想であり、悪魔から来ます。このことで、あなたは悪魔、サタンと会話することをやめる必要があります。召会に反対したり、兄弟姉妹を誤解したり、憎ませたりするのは、あなたではなく、あなたの肉の中の悪魔です。1 ペテロ 5:5 同じように、若者たちよ、年長者たちに服従しなさい。またあなたがたはみな、互いに謙遜の帯を締めなさい。なぜなら、神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。6 ですから、神の力ある御手の下にへりくだらされなさい。…7 あなたがたの心配事をすべて、神に投げてしまいなさい。なぜなら、あなたがたに関することを、彼は心に掛けてくださるからです。8 慎んで、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔は、ほえたける獅子のように、歩き回って、だれかを食い尽くそうと捜し求めています。

8 節 FN「食い尽くそうと捜し求めている」: ペテロはここで、迫害の中で苦しんでいる信者たちに警告しています。もし彼らが、神の力ある御手の下にへりくだらされようとせず、また彼らの心配事を神に投げてしまわないなら、ほえたける獅子、悪魔、彼らの敵によって食い尽くされるでしょう。このことは、高ぶりと心配事が、私たちをほえたける獅子の飢えを満たす絶好の獲物にすることを教えます。

サタンと会話すると、サタンの獲物になってしまいます。サタンからの言葉に反応し、会話してはいけません。そのために、あなたはへりくだることと心配事を神に投げることを実行してください。あなたがサタンと会話すればするほど、サタンはあなたを高ぶった人にし、心配事で満ちた人、不信仰な人にします。あなたがへりくだり、心配事を神に投げるなら、サタンと会話することを拒絶することができ、魂の中の悪魔的思想は対処され、兄弟姉妹と同じ事を思い、魂の中で結合されます。この時、あなたは召会生活の中で、豊かにキリストを経験し、享受して、喜びで満たされます。

魂の中の悪魔的思想が追い出され、喜びに満たされた召会生活を持つことができれば、あなたのビジネス・ライフや研究生活に素晴らしい積極的な影響があるようになります。祈り: 「おお主イエスよ、私の魂の中の悪魔的な思想を掃ってください。そのために、目を覚まして決して悪魔と会話せず、特に高ぶりと心配事を吐き出します。それは私が兄弟姉妹と同じ事を思い、魂の中で結合し、キリストを享受して、喜びで満たされるためです。また、神のエコノミーの中で、私のビジネス・ライフも祝福してください」。

高い福音 第13課 主イエスは罪人の友(上)

マタイ 11:19 人の子が来て、食べたり飲んだりすると、「見よ、食をむさぼる者また大酒飲み、取税人や罪人の友」と言う。しかし、知恵はその働きによって義とされる。

福音書では、主イエスは罪人の友として紹介されています。歴史上、イエスは救い主となる前に、まず罪人の友として人々の間で生活されました。今日もなお、イエスは私たちの救い主となられるために、まず私たちの友になられ

ることに気付いておられるでしょうか？ 私たちが彼を救い主として喜んで受け入れる前に、彼は一人の友として私たちの所へ来られ、私たちが彼に親しく出会うことができるようにし、救いの門はいつも開かれており、私たちが彼を救い主として受け入れることができるようにしています。これは一つの尊い発見です。

私は救い主を罪人の友として見て以来、多くの風変わりな難しい人が主のもとに導かれるのを見てきました。ある所では、一人の若い女性が、私のところにやって来て、自分は救われたくないのだと私を責めて言いました。彼女は「私は若い楽しい時を過ごしたい。自分の今の生き方をやめて落ち着いたまじめな生活はしたくない。もしそうするのなら、人生には何の喜びもなくなってしまふ。罪を捨てるつもりはないし、救われたいとは全く思わない！」と言いました。ミッションスクールで育った彼女は、福音についてはよく知っていました。そしてそのことが福音に対する反発となっていたのです。彼女はしばらくの間、私に食ってかかっていたのですが、私は「一緒に祈りましょう」と言いました。「何を祈るのですか？」と彼女は私を軽蔑して答えました。私は、「あなたの祈りに対して私に責任が持てるはずがありませんが、私がまず祈りますから、あなたは今まで私に言ったことをそのまま主に話せばよいのです」と言いました。「ああ、そんなことはできません！」と彼女は幾らか不意を突かれたように答えました。「いいえ、できます。主は罪人の友であることをあなたは知らないのですか？」と私は答えました。この言葉が彼女を捕らえました。彼女はとても風変わりな祈りでしたけれども、とにかく祈りました。そして、その時から主は彼女の心の中に働かれて、二、三日後に彼女は救われたのです。

人々を導いて主に出会わせる: 単に知識のみによって救われてきた人たちは、頭だけ大きく発達させてしまうことがよくあります。彼らは、それほど神を必要としていないのですが、前進していきます。彼らは、自分はすべてを知っており、教える者が事実を提示する方法を批評する資格があるとさえ感じています。しかし彼らが危機に瀕し、方向性を失い、必ず主に信頼しなければならぬ時が来ても、彼らは主を信頼することができません。彼らは主との生きた接触の中にいないのです。しかし、他方では、知識はほとんどありませんが、自分自身から抜け出して生きた神に触れており、最も厳しい試みを通してさえ、信仰の中で育ち成長していく人たちがいます。ですから私たちの最初の目的は、人々を導いて主に出会わせることであるべきです。

生ける主が私たちの救い主となられたのです。イエスとははや十字架の上でのお方ではなく、支配しておられるお方です。ですから今日、私たちが救われるのは、十字架に行くことではなく、御座の前に来て、彼が主であることを信じるのです。私たちは贖いと救いの区別についてもっとはっきり見るべきでしょう。贖いは主イエスが二千年前、十字架の上で完成されました。私たちの今日の救いは、この贖いに基づいており、それは時間の中で一度で永遠に完成したのです。救いは個人の主観的な経験である(1): このように見ていくと、救いは個人の主観的な経験であり、それは主の死よりももっと主の復活に基づいていると言うことができます。神の御前で客観的に罪を覆うためにキリストの死は必要でした。しかし救いのために新約が強調するのは、私たちが主の復活を信じることです。復活は彼の死が受け入れられたことの証明です。私たちは、主イエス・キリスト個人がすでに復活し、昇天して、栄光に入られたことを信じます。私たちは今、罪人が彼との直接の接触にもたらされるように努めます。